

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	i一般社団法人つばさ 小川事業所 放課後等デイサービス		
○保護者評価実施期間	令和 7年 1月 31日		～ 令和 7年 2月 28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	49人	(回答者数) 19人
○従業者評価実施期間	令和 7年 2月 1日		～ 令和 7年 2月 28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	9人	(回答者数) 7人
○事業者向け自己評価表作成日	令和 7年 3月 11日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	職員の資質向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されており、質の高い支援を提供できるよう研鑽している。	資質向上に必要な外部研修に積極的に参加したり、ケース検討を実施し、相談したり助言したりする機会を設けている。新入職員には日々の振り返りにOJT研修を取り入れている。	内部研修の充実により、職員一人ひとりの知識や技術の向上を進める。また、放課後等デイサービスガイドラインを活用し、基本的事項を踏まえ、当事業所の実情に合った創意工夫を図る。
2	活動プログラムが固定化しないように工夫している。こどもの状況に応じて、誰もが参加でき、楽しめる活動を設定している。	定期的な職員会議を実施し、個別活動、集団活動の振り返りを丁寧に行い、専門職指導の助言を共有し、活動に反映させている。	職員一人ひとりの持つ強みやアイデアを出し合い、新しいことを取り入れたり、幅広い活動プログラムを展開している。
3	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている。	相談支援専門員が行うモニタリングに同席し、こどもの発達状況や課題等を話す機会、情報を共有する機会を定期的に設けている。	家庭、学校、事業所での様子について情報交換する場を増やし、課題の整理、支援者間の共通理解により適切な支援の提供につなげる。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	こどもたちが過ごしやすい環境設定を目指しているが、安心感を得るようなパーソナルスペースが十分でなかったり、生活空間がわかりやすく構造化されていない。	こどもたちの年齢構成や状態像等が幅広く、きめ細やかな配慮を要するが、苦慮している。	活動プログラムを工夫し、個別・小グループ活動を取り入れ十分な活動スペースを確保していく。また、個別の部屋や場所を確保するよう努める。
2	支援終了後に、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有したいが、できない日もある。	支援開始前には、十分な時間をとり打合せを行い、その日の支援内容や役割分担を確認したり、意見交換したりしてチームの連携が図られているが、支援終了後は、スタッフがそろそろ時間をとることが困難な状況にある。	更にチームの連携を深めるには、支援終了後の振り返りと情報共有等を、居合わせたスタッフで短時間でも毎日行うことを定着する。
3	保護者同士で交流する機会、きょうだい同士で交流する機会を設けていない。	父母の会、保護者会が組織化されていない。また、障害や発達状況および家族の多様化、家庭背景の複雑化がある。	家族参加型の行事、情報提供の場や研修機会を計画していく。